

アトリエ 琉游舎 だより 80号

アトリエ琉游舎 ryuyusha.com/

琉游舎for healing <https://toi101izuru.wixsite.com/mysite-3>

2020年6月3日発行

ダンマパダ 真理の言葉

岩波文庫「ブッタの真理のことば」中村 元訳

- 「ダンマパダ」は「法句経」の名前で知られるお釈迦様の言葉（教え）を集めた仏典です。ダンマパダは古いインドの言葉（パーリー語）で「真理の言葉」という意味です。
- 「ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によってつくり出される。もしも汚れた心で話したり行なったりするならば、苦しみはその人につき従う。一車をひく牛の足跡に車輪がついて行くようにー」「ものごとは心にもとづき、心を主とし、心によってつくり出される。もしも清らかな心で話したり行なったりするならば、福楽はその人につきしたがう。一影がそのからだから離れないようにー」「ダンマパダ」冒頭の言葉二句です。
- この対の言葉にお釈迦様の教えの真髓があります。人間に対する真摯な洞察と深い反省に基づいた生活の指針がここにあります。「福楽が影のように体から離れない」境地は「安らぎのところ」です。そこに辿り着くためには「清らかな心で話したり行ったり」すれば良いのです。日々実践可能な教えが仏教です。しかしそれを日々全うすることが難しい教えが仏教です。人は欲と怒りと無知の三毒（煩惱）から逃れられない生きものだからです。
- 息を吐き続けるが如くに嘘を吐き続ける人たちがいます。苦痛ではないのでしょうか？嘘に嘘を重ねて厚化粧した厚顔無恥の顔には、福楽はおろか苦しみの表情も消え失せ、ただ「私は正しい、私は悪くない」をマスク越しに感情を失った顔で繰り返すばかりです。
- 彼は自分だけの真実と正義を語っているつもりかも知れませんが、あべのマスクのフィルターを通して私たちの耳に届くときには、確かに偽りの言葉に変わっているのです。
- お釈迦様の言葉が真理（ダンマパダ）ならば彼には一生苦しみがつき従っていくはず。そうでないならば、私たちの苦しみを元手にこの世を嘘で支配しようと企てるマーラ（魔羅）の化身に違いありません。神仏頼りでないマーラ退散の方策を真剣に考えるときです。

写経会

6月7日(日)
13時半から

詩話会

6月13日(土)
13時半から

読書会13時半

6月9日(火)
6月23日(火)

今回の読書会から般若心経を読みます。写経や朝夕の読誦で皆さんには馴染みの深い経だと思えます。とても短いものですが、ゆっくりと読んでいきます。資料はご用意いたします。手ぶらでどうぞ。

6/4 木	13時半	逃走迷路 (109分)	ヒッチコック監督。航空会社に勤めるハリーは工場への破壊工作の濡れ衣を着せられ、手錠のまま逃亡するが、、、サスペンス映画史に残る傑作。
6/11 木	13時半	ベリッシマ(109分)	ルキノ・ビコンティ監督。娘を映画のオーディションで優勝させ子役スターにしようと躍起になる母親。最終審査の日母親は娘が話題になるシーンを見てしまい、、、
6/18 木	13時半	夜霧の港 (95分)	ジャンギャバン主演。カリフォルニアの小さな港町で働くフランス人ボボ。ある晩彼は入水自殺しようとしたアンナを助け、港の小屋で結婚生活をはじめようとしていたが。
6/25 木	13時半	サハラ戦車隊(97分)	ハンフリー・ボガート主演。北アフリカ戦線。ロンメルが指揮する伊軍の大攻勢に米軍は撤退命令が出るがM3中戦車エンジンの故障により落伍3名は本隊から逸れてしまう。
7/2 木	13時半	疑惑の影(107分)	ヒッチコック監督。叔父のチャーリーを迎え入れたニュートン家。長女だけが彼に不信を抱く。次第に深まる叔父に対する疑念と謎。抑制された演出で緊張感を描いた佳作。

5月から6月は季節の変わり目、暖かく湿った空気と冷えて乾いた空気が日ごとに行ったり来たり、真っ青な高い空に一気に雲が湧きあがり、雷雨が駆け足のように通り過ぎ、そしてまた小一時間もすると雲間から強い陽ざしが射し込みます。今は梅雨の走り、北の空気と南の空気が小競り合いを繰り返しながら次第に調和し本格的な梅雨の季節になっていくのでしょうか。この時期は作物が一気に成長します。ついでに雑草もここぞとばかりに繁茂します。雨上がりはしっとりした空気が気持ちよい散歩日和。気が合うのか蛇の散歩にもよく遭遇します。私もびっくりですが、蛇もたまげたのか慌てて山の方へと退散、いつもの光景です。

いつもと違う今年の春がもう終わろうとしています。しかしそう思っているのは私たち人間だけで、自然はいつもと同じようにいつもの春を終えようとしています。今を新型コロナの時代とするならばアフター・コロナの時代は果たして来るのでしょうか。それともこれからずっと私たちはコロナ時代を生きていかなければならないのでしょうか。今を「不信」の時代とあきらめるか、このようなときこそ「信」が必要な時代と考えるか。人間という生きものだけが「不信」の時代を生き、自然が「信」を生き続けているならば、私たち人間も強い「信」を獲得して自然の「信」の仲間入りをする必要があるのではないでしょうか。

内村鑑三の著作に「代表的日本人」があります。彼は無教会派キリスト教伝道者にして評論家。一高教授のとき教育勅語に対する敬礼を拒否して免職となり、日露戦争に際しては非戦論を唱えるなど、聖書とキリストへの純粹信仰の立場から明治大正の日本の宗教、教育、思想、文学、社会その他多方面に広く深い影響を及ぼしました。従来 of 教會的キリスト教に対し無教会主義を主唱。英語で書かれた「余は如何にして基督信徒となりし乎」は彼のキリスト教への回心が綴られた世界中で読まれているキリスト教文学の名著です。「代表的日本人」も英語で書かれています。欧米先進国の「日本人は唯一神を信じない未だ『信仰』というものを知らない精神的文化的に遅れた民族だ」と言う誤解を払拭するために、果敢に打って出た著作です。日本人には古来、強い信仰心があったことを五人の代表的日本人を挙げて語っています。

宗教という私たちにはほぼ「宗派」と同じ意味に受け取りますが、内村のいう「宗教」は宗派の差を超えて、「大いなるもの根源的なものと人間との交感」を指しているようです。それは日本ではしばしば神や仏、天、徳、道、至誠、仁術などの言葉で表現されるものです。彼は「大いなるもの」に強固な「信」を置きこの原理に基づいて政治・経済・教育を実践した人について語りました。西郷隆盛、上杉鷹山、二宮尊徳、中江藤樹です。彼らは広義の宗教家です。最後に狭義の宗教家として日蓮上人が挙げられています。意外に思われるかもしれませんが。原理主義的な側面を見ると、彼の無教会聖書信仰と日蓮の法華経信仰の教義は両極端に位置します。しかし信仰の峻厳さに於いては全く等しい処にいたのです。「余は、基督教外国宣教師より、何が宗教なりやを学ばなかった。すでに、日蓮、法然、蓮如、その他敬虔なる尊敬すべき人々が、余の先輩と余とに宗教の本質をしらしめたのである」注1このように彼は日本人の中に脈々と受け継がれている強い信仰心の正統な継承者であることを強く宣言しています。彼は時代と彼の気質・能力が聖書の教えと交感した結果キリスト信徒となっただけであり、彼にとっての宗教家は「信」に基づき自分のやるべき使命を自覚し強い意志と実行力を持って行う人です。そして彼らが日本人と呼ばれるべき人たちののです。

内村は日蓮が初めて仏教を日本の宗教にしたと述べています。「彼は彼の独創と独立とによって、佛教を日本の宗教たらしめたのである」注2それまでの天台・真言・浄土・禅などの宗派はすべて中国からの輸入品でした。日蓮は教えを解釈し広めた人の言葉に「信」を置くのではなく法華経そのものに絶対的な「信」を置きました。「依法不依人（法に依って人に依らず）」という立場です。内村が聖書に絶対的な「信」を置き教会などの仲介者を置かなかったことと全く同じです。「法」そのものに依れば、その法のある「国・時・人」つまり日蓮にとっては日本の鎌倉時代の社会の中で法華経がその法の力を現わすはずです。そして日本で顕現した法華経の力を日本発で中国からインドへと逆輸出しようとして構想していました。この雄大な世界観を持った日蓮の独創性と独立心に内村は最大限の賛辞を送っています。「彼の大望もまた、彼の時代の全世界を包容せるものであった。・・・疑いもなく、甚だ御し易き人間ではなかった。彼は彼自身の意志を有つていたからである。併し斯くの如き人のみが独り国民の脊髄である。」「争闘性を差引きし日蓮は、我等の理想的宗教家である。」注3本文結びの言葉です。毀誉褒貶、評価が背反する異端異形の僧日蓮に異教徒の内村は日本人宗教家のつまり日本人の理想像を見ている。これは不思議なことではありません。「信」に基づいた強い意志と実践、そしてその独創性と独立心に彼は日本人のあるべき姿を見ているからです。

日蓮の言葉に「我れ日本の柱とならむ我れ日本の眼目とならむ我れ日本の大船とならむ」注4とあります。これは大言壮語ではありません。「信」に裏付けられた決意と覚悟の誓願です。そしてその通りに彼は「行い」続け、度重なる権力の脅しや死罪流罪をも「信」の力ではねのけました。日蓮の言う「柱」は大いなるものであり根本原理です。「眼目」はありのままに観る智慧です。「大船」は皆を安らぎの処へと導く行いです。「私を（法華経）を信じよ、さすれば私が智慧の目となり必ず安らぎの処へ導かん」彼の誓願です。

私たちが今、いつもと同じ日々を迎え続けるためには、大いなるものと交感する「信」の人が必要です。「不信」が好物のマーラ（魔羅）の代理人たちが日々偽りの約束をバラマキ続ける中で 琉游舎：戸井 出琉・恭子 「信」の人の誓願を待ち望むことは余りにも宗教的なことでしょうか？